

平成 30 年度

事業所名 : スマートホーム・パティオ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0391100021 | | |
| 法人名 | スクー 株式会社 | | |
| 事業所名 | スマートホーム・パティオ | | |
| 所在地 | 釜石市小佐野町2丁目3番39号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年8月7日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年10月1日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=0391100021-00&PrfCd=03&VerSi_onCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会 |
| 所在地 | 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号 |
| 訪問調査日 | 平成30年8月22日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ建物1階に小規模多機能型居宅介護が併設しており、職員は兼務している。入居者も自由に行き来しており、合同でレクリエーション等の活動も行っている。職員の資質向上のために外部研修への参加や自施設での研修活動も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の利用者への対応は、穏やかで丁寧に行なわれている。共用のホールでは、利用者が思い思いの場所でゆったりと寛ぎ、利用者同士で、また職員と笑顔で会話し、事業所理念の「笑顔と思いやりでみんなの中に和」が、日々のケアで実践されていることが窺われる。法人は、研修に参加しやすい勤務にするなど、職員の研修参加を積極的に勧め、また、介護福祉士や介護支援専門員、調理師の資格取得に向けた受講料を支援している。毎月開催している所内研修会では、年間計画に沿って職員が交替で講師を担当することにより、主体的に学ぶ姿勢を引き出している。これら取り組みの継続的な実施により、職員の資質の向上と、事業所全体のケアの向上がともに着実に図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

平成 30 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念は立ち上げ職員皆で作り上げ、毎朝のミーティングでの呼称とホール掲示により共有しながら実践につなげている。 | 理念「笑顔と思いやりでみんなの中に和」は、事業所開設時に職員で話し合い作成したもので、ホールに大きく掲示し、朝のミーティングで確認している。新人研修の機会に理念について指導するほか、職員同士で理念に沿ったケアが提供できているか、注意しあうように努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会会員となっている。道路整備に伴う近隣住宅の解体、移転があって、その際は当所駐車場を開放したり、井戸端会議的な交流の場となっている。 | 地域の、幼稚園児や大正琴演奏ボランティア(2カ月に1回来訪)との交流が続いている。隣接の小学校の運動会の練習を見に出かけ、近所の子どもは事業所恒例行事の「さんまの会」に参加し、演歌歌手の慰問時には近所の方をお誘いしている。また、近所の方がホーム周辺の草刈をしてくれるなど、地域とは、自然な繋がりが出来ている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方々の見学来所があり、また運営推進会議等を通じて、認知症介護支援の実際を発信し、理解の一助となっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 併設の小規模多機能型と合同で定期開催しているが、当会議活用の小規模外部評価において、当事業も合わせて現状理解を得、ご意見頂き、サービス向上に活かしている。 | 運営推進会議には、利用者、家族、警察、消防、市職員、地域代表が委員として出席している。会議では、活動状況や事故・ヒヤリハットの報告をしている。委員から、火事への注意喚起や地域での孤独死の問題、百歳体操の導入など、活発な意見・提案があり、運営に取り入れている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市担当課へのほぼ毎週の事務連絡や運営推進会議への参加も頂いて、指導・助言を得ている。 | 市には、定期的に高齢介護の窓口連絡文書を取りに行き、その都度声を掛けられ、担当者から助言や情報を頂くなど、日常的な関係ができている。職員不足の解消や利用者の施設入所の相談など、懇切丁寧に対応して頂いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 契約書におけるサービス内容にて身体拘束を行わない旨具体的に盛り込み、月例開催の職場研修でも毎年度テーマに取り上げて取り組んでいる。 | 身体拘束を毎年度の職場研修のテーマとし、今年度は職員をプレゼンターとした研修を6月に開催するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックには特に留意し、職員は日々の業務の中でその都度注意しあい、根絶に努めている。管理者は、外部の研修を受講している。 | 身体拘束廃止について、今年度制度改正が行なわれたことから、「身体拘束適正化検討委員会」の設置、指針の作成、研修の開催等、法人全体で、積極的な取り組みを更に進めていられるよう期待する。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待の区分、定義や事例を学び、見過ごすことのないように留意しており、職場研修でも毎年取り組んでいる。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者が成年後見人養成研修を受講済みで、独居等であった利用者には普段から必要性の検討に留意し、職場研修でも取り組んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 疑問点の解消には必要な分時間をかけて、またご理解頂ければ改めて何度も説明の上、納得頂いてから契約であったり改定の同意を頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日々の面会等を通じて意見・要望を承り、スタッフ間で話し合いながら施設運営に反映させている。 | 家族が面会等に訪れた際には、必ず声を掛け、意見や意向を聴きとるようにし、利用者の笑顔の写真を撮っておいて欲しいと要望されている。これまで、家族から事業所で働く職員を紹介して頂いたこともある。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者参加の日々の申し送りやミーティング、月例会議等にて職員は率直な意見・提案を述べる機会があり、反映させている。 | 朝夕のミーティングには管理者も参加し、職員の生の意見を聞く機会になっており、勤務時間についての職員の提案を基に、夜勤者の勤務時間を変更するなどの改善が具体化されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の資格・勤続年数に応じた手当支給・昇給等就業規則や給与規定に沿った労務管理に努め、個々の勤務状況の把握や希望休日の受付等環境・条件の整備に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 経験・力量に応じて実践者研修申込、資格取得に向けた研修等参加へのシフトの優先配慮、また無資格者に対しては受講料負担で実務者研修受講等スキルアップに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 被災施設からの避難者受け入れ、その後の移管等の経緯から利用者・職員の交流や連携がなされている。さらに各種研修参加から同業者、多職種間交流も介して資質の向上に努めている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の自宅であったり病院や施設での様子をうかがいに複数回、また実地に赴く職員も複数名訪問の上要望等に耳を傾け、チームケアの安心感を事前に創出するように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初期の段階でサービス内容をできるだけわかり易く説明し、見学・面会も重ねて頂いており、また家庭的な雰囲気から家族が相談しやすい環境を醸成するよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービス導入後も前任担当のケアマネや入居前の利用サービス事業所等と情報交換に努め、現行サービスの是非やニーズの検討を繰り返している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一人ひとり出来ることやその人らしい個性を發揮して頂き、共同生活の時間の経過も味方にして、互いに理解し、支えあえるよう支援している。対峙する関係とならないようユニフォームは作っていない。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時は、居室でゆっくり過ごして頂いたり、日ごろの連絡・相談を介して共に支援方法を考え、外出や通院の支援も協働できる関係の構築に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族以外の面会者も歓迎してできるだけ来所頂けるよう勧め、馴染みの美容店利用や外出の折々にドライブがてら思い出の場所をめぐる等努めている。 | 家族以外の方でも繰り返し訪問して頂けるよう、来訪時には声掛けしている。家族から意見があり、面会簿を廃止し自由に出入りが出来るようにしている。利用者によっては、馴染みの美容室の方に送迎していただいたり、訪問理容の理容師と馴染みになっている方もいる。桜見物などのバスドライブの際には、事前に把握した思い出の場所をコースに入れるよう工夫している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 迷惑行為が多い利用者も分け隔てなく、利用者同士がもめてしまうことも恐れず、互いに理解や認め合える雰囲気醸成に努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他事業所からの震災避難利用者とは、復旧後も交流を継続、また移管利用者については、環境の変化を少なくするよう情報提供惜しまず事業所間協力している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 食事や美容の希望をきいたり、花木の手入れや日頃の茶碗洗い、お膳・テーブル拭き等それぞれにしたいと望まれる仕事をして頂いたりしている。 | 一人一人の希望や意向は、入居時のアセスメントのほか、日常の会話や家族からの聴き取りによって確認している。また、言葉で意向を現すことが困難な方の場合は、動作や表情から汲み取り、ミーティングの際に職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前の情報にとらわれず、日々継続して普通の会話から情報収集するほか、家族の面会を通じてこれまでの生活の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | スタッフノート等も活用しながら、日々の変化の情報を共有し、食事メニューや福祉用具活用等にも細やかな対応を心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月の全体カンファレンスや日常のケア、家族との連絡・相談及び担当者会議やモニタリングを基に介護計画を作成している。また利用者の状態に合わせて職員の勤務シフトも臨機に対応している。 | 計画作成担当者が介護主任や看護師からの聴き取りを経てモニタリングや評価を行っている。その後、介護計画原案を作成し、利用者、家族、職員による担当者会議で検討し、その時々状況に合わせたケアを提供できるよう、介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 業務の段取りや工夫、職員の努力によってスタッフ皆でPC入力する日々の記録や毎日のミーティング等から情報を管理、共有してケアの改善を目指している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設の小規模多機能型と連携した多様な、例えばベッドでは転落危惧される入居者の小規模用布団敷き畳部屋利用等ニーズに対応して柔軟な支援に取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 昔からのかかりつけ医師を変更することなく必要があれば往診頂いたりし、また家族以外のご近所付き合いの方々にも来所面会頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | サービス導入以前からのかかりつけ医とのつながりをそのまま尊重し、またかかりつけ以外の医療機関についても本人希望や症状に合わせて家族連絡・調整のうえ受診かになっている。 | 入居前からのかかりつけ医を継続している。通院は家族が同行し、血圧・体温などのほか生活状況など、必要な情報は文書にして医師に伝えている。家族が同行できない場合には、職員が付き添い診療結果を家族に報告している。歯科については往診を利用している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師も介護職と共に日々の利用者ケアに当たって情報共有し、また通院介助も介して主治医、薬局等関係医療機関との連携も図っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 本人の見舞いのほか医師、看護師やMSW等と面談・相談しており、併設小規模業務における日頃の入・退院者の利用調整・情報交換等からも連携している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 近い将来の重度化が想定される方々の主治医先等医療機関と相談しながら、本人・家族への説明等また職場内・外における重度化、終末期及び看取り等についてスタッフ研修を図り、布石としている。 | 「ターミナル(終末期)ケア及び看取りに関する指針」により、入居時に終末期の対応について、家族に説明し同意を得ている。これまで看取りを行なった方はいないが、終末期のケアに関する研修を実施し、また、訪問診療が可能な医療機関の協力を得られるように体制を整えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的な消防避難訓練のほか、職場における非常緊急時の対応等研修会を開催している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 近隣施設との連携・協力関係を築いており、また消防署が向かい隣りであったこともあり、施設現況の理解を得て職員一同分かり易い指導を頂いている。 | 消防署立会いによる火災想定避難訓練を日中と夜間を想定し年2回実施している。避難時に協力を得られるよう、法人系列の職員はもとより運営推進会議の委員に声掛けするなどの対応をしている。また、水害時等の避難場所として、予め隣家(4階建て宿舎)の協力をいただいている。 | 夜間想定で日中に訓練を実施しているが、避難経路や屋外での避難誘導など実際に近い訓練ができるよう暗くなった時間帯に実施することが望まれる。また、地域の協力が更に得られるよう取り組まれることを期待する。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 「笑顔と思いやり」で接遇し、認知症状によるその人の世界、言動を理解するように努め、やにわに否定することをせず、人格の尊重に心がけている。 | 利用者との会話は、敬語や丁寧語で話し、状況をみながら本人に合わせた言葉を使用するようにしている。本人が話したことを忘れてしまうような時は、否定せずに受け止めている。トイレ介助時、一人でトイレに居ることが出来る方は、声を掛けてその場から離れ、プライバシーを損ねないようにしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が希望を話しやすい雰囲気作りに努め、行事等への参加、着衣選び、食べたいメニュー等自己決定できるよう働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 無理な強要となることなく、その日の体調や気持ちの状況に合わせて入浴機会や食事時間・場所、刻み具合等柔軟に対応し、その人のペースを大切にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣服や理美容、化粧品の好み、男性であれば髭剃りの仕方等その人らしくできるように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | おかゆ・刻み・トロミ対応や箸かスプーンか、かかる時間等も本人のその時々ペースに合わせて、職員も一緒に食事をとっている。 | 献立は、季節ごとの行事食や利用者の好みにも配慮し、調理師資格を有している職員が作成している。調理は職員が行ない、おかゆ・刻み・とろみ等、利用者個々の機能に配慮している。職員は、介助しながら一緒に食事している。食後にトレイや食器を拭くことを役割にしている方もいる。毎年秋の「さんまの会」には、近所の子どもたちも参加し、利用者の楽しみになっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員が順次に栄養・調理研修に参加し、健康管理を基として一人ひとりの状態に応じた食事、また効率よく水分補給できるよう好みに応じた飲物の提供をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 協力歯科医院の往診あり、義歯等に不都合が生じた際はすぐ対応して頂いている。また食後の口腔ケアを習慣化しており、口腔内の清潔に勤めている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 24時間の排泄チェック表を基に必要な方へは時間毎のトイレ誘導、また個別の尿・便意サインを見逃さないようにしてトイレでの排泄支援をすすめている。 | 排泄は個人ごとにチェック表に記載し、排泄状況の確認と誘導タイミングを判断し、トイレに誘導している。便秘改善のために、日中はベッドから離れて過ごす取り組みをしている。失敗した方はシャワー浴で対応し、清潔保持に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 体操・散歩、活動を通して離床・運動機会を多くし、一人ひとりの便秘解消の経験・工夫も尊重して食べ物や飲み物も自主的に摂って頂けるよう支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴に消極的な方が意外に多く、個別に工夫して誘ったり、排泄等の汚染時に臨機に入浴対応している。 | 週2回、主に午前中に入浴している。事業所は個浴の特殊浴槽で、広い浴槽を希望される方は1階に併設されている小規模多機能ホームで入浴している。入浴介助技術向上のために職員も実際に入浴して研修をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 震災時に相部屋慣れしたりして、居室よりホールで寝た方が安心される方もいて、その人それぞれの落ち着く場所があり、尊重して対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬種をファイル管理し、看護職主体に皆で把握、またかかりつけ薬局の日頃の配達や情報交換のうえ主治医の診断に資する服薬支援・確認に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 掃除や洗い物等日常で一人ひとりに合わせた役割を担って頂き、また日頃の趣味活動も楽しんで頂いている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人・家族や地域の要望に沿って、日常の散歩や時節の花見、紅葉狩りや盆踊り等のほか震災後の復興見物にドライブに出かけたりしている。 | 桜・紅葉見物の季節のドライブや震災復興見物等、外出を楽しんでいる。散歩できない時や車椅子の方も、玄関から外に出たり、ベランダに出て体操するなど、屋外に出ることを勧めている。散歩や買い物に連れ出してくれる家族もある。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個別の金庫と現金管理表をもとに小口で出納管理しているが、家族と買い物に出かけたり、好みをきいて買い物代行したりそれぞれに応じて支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は家族等相手の意向を踏まえながら本人希望に合わせていつでも通話できるようにしている。手紙やはがきも届き、読み聞かせ等援助している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 派手をさけて自然で落ち着く雰囲気心をかけているが、入居者の作った絵等を飾ったり、節句ごと季節感を出す飾りつけをしたりしている。 | ホールには大型テレビがあり、その横にはソファが設置され、自由に利用できるようになっている。3カ所のトイレと洗面台は、それぞれ各居室から利用しやすい位置に配置されている。暖房は、1階の暖気が吹き抜けから上がってくる仕組みで、冷房はホールに設置され、扇風機や居室内の換気による空気の流れで居室の温度調節が図られている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールは、テーブルについて皆でゲーム等するもいいしソファでテレビを観るのもよく、また小上がりの畳で昼寝してもいいような作りになっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを利用して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室扉にのぞき窓はなく、個室として閉ざされる。置いて不都合ないものは持ち込み自由で、使い慣れた時計等持ち込まれ、またアンテナ線を全室に引いてあるのでテレビも持ち込める。 | 各居室に、電動ベッド、クローゼットが設置されている。また、全居室にテレビのアンテナ線が引かれている。使い慣れた小筆筒や小卓、椅子、テレビが持ち込まれ、家族の写真や時計が置かれている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 併設小規模多機能型との交流多く、エレベーター利用するが、階段を運動兼ねて利用するときは、波型手すりが有効活用されて安全を創出している。 | | |